

経済学部 30 周年記念号の刊行にあたって

日本福祉大学経済学会会長・経済学部長 丸山 優

日本福祉大学経済学部は、1976年に名古屋市昭和区で産声を上げ、1983年に現在の美浜キャンパスに移転し、2006年に30歳の誕生日を迎えました。そこで2006年度に、すでに1万人を超える学部卒業生（同窓生）のご協力も得て、12月8日のシンポジウム「地方の時代の政治と経済―人間の幸福の経済学―」をはじめとして、多様な記念行事を展開してきました。その一環かつ締め括りとして、いまここに『経済論集』（1990～）の経済学部30周年記念号を上梓することができ、関係者一同、大きな喜びに包まれています。

と同時に、人間で言えば働き盛りを迎えたいま、新サイクルの開始というに値する教育・研究上の寄与がなしうかどうか、改めて気を引き締めているところです。

「福祉を理解する経済人」——これが開設時の人材養成目標でした。経済人が自己利益（狭義の個人的厚生）を動機として行動する人間（ホモ・エコノミクス）であるとすれば、これは、「啓発された（enlightened）自己利益に基づいて行動する人間」を意味することになりました。また、「思いやりがあるから冷静な思考ができる人間」warm heart & cool head（A. マーシャル）とも解釈されうでしょう。そこには、社会福祉事業に関心を持つ青年（および社会人）を社会科学、とりわけ経済学の素養を身につけるよう誘導し、民間部門であれ公共部門であれ、社会のどの分野でも活躍できるようにしたいという福祉社会構築への気概が込められていました。さらに、社会福祉学部だけの単科大学から「人間福祉すなわち幸福」を多面的に追究する総合大学への発展の礎にしようとする学園の大望も込められていました。そして、本学部はそうした使命を全うしてきたと思います。

名前に「福祉」を掲げた大学のなかで経済学部を有するのは今でも日本福祉大学ですが、そのなかで本学部は、定員を1988年から300名、1991年から400名に増やし、1996年に経済学科と経営開発学科の2学科構成にし、2001年に通信教育部を開設するなど、社会に有為な人材の輩出に大きく貢献してきました。わが学部を地盤にして情報社会学部（1995～）、福祉経営学部（2003～）といった新学部が建ちあがった関係で、いまは再び経済学科だけの学部に戻りましたが、積み上げられた実績はたやすく浸食される性質のものではありません。今後とも、紆余曲折はあるにせよ、これを確実に継承してまいります。

「経済の時間」は人に立ち止まることを許さず、前へ前へと押しやる波になぞられます。英雄を忽ち「空のジャガイモ袋」（ヘーゲル）に変え、現在を忽ち廢墟に変えるその力に流されながらもなお、幸福の時間・空間を設計する近代の企図（未来プロジェクト）に与し続けて、日

本福祉大学経済学会として、研究のいっそうの発展も図ってまいります。

最後になりましたが (last but not least), 30 周年という節目にあたり、本学部の誇りと伝統を築くのに貢献された先輩、同窓生の皆さまに厚くお礼申し上げます。併せて読者の各位には、『経済論集』にこれまで以上にご注目いただきますようお願い申し上げます。

2007 年 4 月